

ICANN マルデルプラタ会議報告

At-Large諮問委員会 (ALAC)

2005年5月18日

会 津 泉

ハイパーネットワーク社会研究所
インターネットガバナンスタスクフォース

<izumi@hyper.or.jp>

At-Large 組織

- ALS これまでに29団体申請、19団体認証
- 新しいAtLargeメンバー
 - Jean Armour Polly (北米) 04年12月 ~
 - John Levine (北米、 Esther Dysonと交代)
 - Annette Muehlberg (ヨーロッパ、 Thomas Roesslerと交代)
- GNSO liaison: Bret Fausett (北米)

ALACの活動

- At-Largeそのものの評価と今後
- ICANN strategic and operational plansについての評価とコメント
- **WSIS / WGIG**
 - ALACチェア、WGIGメンバーに
 - WSISワークショップ開催
 - 他の市民社会グループと協調へ？
- **At-Large Structure 申請**
- **Non-Commercial Users Constituencyと合同会合**
- **フットサル大会に参加、堂々3位！**

ポリシー課題

- .net redelegation プロセス
- Whois
- レジストラー関連の課題
- New TLD プロセス
- IDN
- 期限切れドメイン名のオークション問題
- レジストリーの PDP
- WIPO-2 のPDP

地域の組織化

- アフリカ
 - 2月、WSIS Prep-ComでAtLarge会合、300人参加
 - Web page www.afralo.org 開設、パートのスタッフ配備
- ヨーロッパ
 - メンバー交代、スタッフ必要
- アジア太平洋
 - APRICOT京都で、RALO形成方法を検討、中国が鍵
- 中南米
 - 地域会合を開催
 - Web page www.lacrало.org 開設
- 北米
 - 新規メンバーで活性化へ

その他

- 指名委員会との協調
- 広報活動
 - ウェブの強化
 - 透明性の改善、議事録発表
 - メーリングリスト

ALACの課題

- 重大な転機を迎えている
 - 組織作りは、予想よりはるかに困難
 - 今年末まで努力し、結論を
- 問題点
 - ボランティアの限界
 - 「ビジネスモデル」？
 - ユーザーは、仕事としてではなく、余分の時間でしか参加できない
 - 他の組織と違ってあらゆる課題に関与が求められる
 - アウトリーチが困難 関心は低い
 - 参加するメリット、価値が不明
 - 決定権がないのだから、参加しても無意味というのが多くの意識
 - 組織モデルが複雑すぎる

誰がAt Largeを必要？

- 当初の考え方:自主的な集まり、資金も
 - 「利用者自身が必要と思うなら自主的に参加すれば」
- 「オープン」というのは、ドアを開くだけではな
 - 市民社会、途上国など、力の弱い部分に対しては、より能動的なサポートが必要。受動的に受け入れるだけでは不十分では
 - 市民、利用者、途上国が参加しないICANNは、正統性を欠き、長続きしないだろう
- すべてのICANNコミュニティ、支持組織がAt Largeを必要と考えるかどうか、支持するかどうか
がポイントに

会議の風景

